

東城

趙孟頫

野店の桃花紅紛の姿

陌頭の楊柳緑煙の糸

客を送り東城を去るに因らざるは

春光を過却して総て知らざらん

【作者】趙孟頫(一二五四〜一三三二年)中国,元初の政治家,文人画家,書家。呉興(浙江省)の出身で宋の太祖十一代の孫。

字は子昂(すこう),号は松雪道人。南宋末期に官僚となり,宋の滅亡後は郷里に隠退していたが,一二八六年に元の世祖

(フビライ・ハン)に召されてからは五朝に仕え,官位は翰林学士承旨にいたった。また詩文,書画に優れ,元初の芸術界に指導的

役割を果たした第一人者。絵画は山水,人物(↓文人画)を得意とし北宋,唐の画風の復興に力を尽くした。書は王羲之,

李邕(りよう),柳公権を学んで一家をなし,楷・行・草書に品格の高い作品を残した。なお一族には従兄の趙孟堅,妻の管道昇,

子の趙雍,趙奕(ちようえき)など,画家として盛名を残した者が多い。『鵲華秋色図卷(じやつかしゆうしよくずかん)』

(台北,故宮博物院),『玄妙觀重修三門記』,中峰和尚に送った書『与中峯明本札』などの代表作がある。著作に『松雪齋文集』がある。